

「裏磐梯紀行(16)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka



昼食は、地元の人に教えてもらった「曾原湖」奥の小さなレストランでとった。「ヒロのお菓子屋さん」という店名でもわかる通り、もともとケーキ屋さんである。料理もすばらしかったが、手作りケーキ(花豆入りモンブラン)にも感動した。



磐梯山も描いてみた。これはレンゲ沼(休暇村の近く)から見た磐梯山。私は山と言えば浅間山ばかり描いている。浅間なら何も見なくても、大抵の角度(麓)からの山容を描ける気がする。しかし磐梯山はまったく勝手がちがう。山頂が二つある「双耳峰」であること、山体崩壊でえぐれたあとがほかの山肌とずいぶんちがうこと、手前に沼があることなど、浅間とはずいぶんちがう。シラカバが多いのは、浅間高原も磐梯高原の同じである。どうもスラスラ描けずに、塗りすぎてしまった。沼の手前にある赤っぽい花は、「レンゲツツジ」である。



レンゲツツジは初夏の高原の花の一つだ。独特の淡い橙色が遠くからでも目立つ。



その後、磐梯山噴火記念館、ダリの美術館などを観て、午後3時、猪苗代駅に戻ってきた。郡山行の普通列車はわずか2両連結で混んでいたが、何とか座ることができた。



この日はよく晴れていて、帰りの列車からの磐梯山はとても美しかった。裏磐梯から見たのとは、ずいぶん形がちがう、同じ山とは思えない。まだ稲の背が低いので、山が水田に映える姿がすばらしい。英世も、故郷に帰る列車の中から、これと同じ風景を見たかも知れない。心洗われる福島旅行だった。